日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

教科書特集号 No.34

特集1 子どもたちの「心はずむ」日々のために
［島 恒生（特別寄稿）、龍神 美和・仲川 美世子・渡邊 真魚（インタビュー）］…… 2

特集2 令和6年度版『小学道徳 生きる力』ここに注目！！

基本方針1
「自分を、まわりの人を大切にする力」を育む ……10

基本方針2
「自ら学びに向かう力」を育む ……12

基本方針3
「みんなと生きていく力」を育む ……14

プラス1
すべての子どもたちの学びを支えるために ……15

教師用指導書のご案内 ……15

見てわかる！ 道徳
「個性の伸長」「感謝」
［越智 貢、奥田 太郎、奥田 秀巳］……16

実践事例【中学校】
ロールプレイを通して主体的に考える道徳へ
［奥山 美幸、福島 信也］……18

こんなコト、聞いてみました！
道徳教育について校内での温度差をなくすための工夫は？
［田中 大輔］……22

地球の仲間からのメッセージ
羽［長瀬 健二郎］……23

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の新版教科書情報
詳しくはWebへ！
日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

特集 1

子どもたちの「心はずむ」日々のために

令和６年度版『小学道徳 生きる力』は、子どもたちの自己肯定感の向上をめざして編集されました。新しい教科書を使った自己肯定感アップのポイントを、代表監修の島先生の特別寄稿と、３名の編集委員の先生方へのインタビューでご紹介します。

特別寄稿

プラス志向 で自分づくりの 道徳教育と 道徳科を

畿央大学大学院教授
島 恒生

道徳教育、道徳科とは

道徳教育や道徳科に、どのようなイメージをもっているでしょうか。「～してはいけない。」「～すべきである。」などと、暗くてマイナスのイメージが多いのではないでしょうか。しかし、道徳教育や道徳科は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」（小学校学習指導要領解説 総則編）ものです。

この「道徳性」は、「人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの」（小学校学習指導要領解説 総則編）であり、「一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質」（小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編）です。行いや行動そのものではなく、それを支える見方や感じ方、考え方、さらには生き方であると考えることができます。

私たちは、日常生活の中で道徳的な行為をしますが、例えば、「親切にする」という行為が同じであったとしても、それをする人の心の中はそれぞれです。そして、その見方や感じ方、考え方、生き方が狭く限られたものであるのと、多面的・多角的で多様なものであるのとでは、後者のほうがよりよい行為が選択されることは想像できるでしょう。道徳教育や道徳科は、後者をめざしています。

そしてここに、その人らしさ、まさに「人格的特性」が表れてきます。なぜなら、さまざまな見方や感じ方、考え方、生き方からどれを選択するかは、私たち一人ひとりに任されているからです。

つまり、道徳教育や道徳科は、「自分づくり」であるといえます。私たち人間が本来もっている「よりよく生きたい」という思いや願いをもとに、「なりたい自分」「すてきな自分」「粋な自分」を見つけ、それに近づいていくのが道徳教育であり、道徳科です。

特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育がめざす方向の対極にあるものなのです。

マイナス志向になりがちの指導

ところが、実際は「～してはいけない。」「～すべきである。」などと、暗くてマイナスの指導になっているのです。何より、各学校が、子どもたちや学校、地域の実態を考慮して独自に設定する学校の道徳教育の重点目標からして、「足りないから。」「欠けているから。」「不十分だから。」というマイナスの理由で設定されているのが現実です。「うちの子どもたちはこういうところが素晴らしいから、重点的に学習してもっと伸ばそう。」という発想ではないのです。

マイナス志向の指導は、どうしても、教師にとっては「教える」「伝える」の伝達型に、子どもたちにとっては「受け身」になってしまいます。学習指導要領には、「道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。」とあります。もちろん、ここで言う「養う」とは、児童自らが養っていくことです。しかし、指導者側がマイナス志向では、いくら「主体的に」と言っても、子どもたちは受け身になってしまいます。

プラス志向の道徳教育と道徳科に

「自分にはこのようないいところがある。」ということを自覚し、「もっと伸ばしていこう。」と意欲を高める、プラス志向の道徳教育や道徳科を展開しませんか。

ここに、『小学道徳 生きる力』が、自己肯定感を大切にしている理由があります。

よりよく生きたいという思いや多様な見方、感じ方、考え方、生き方は、子どもたちの心の中に必ずあります。まずはそのことを信じ、引き出すのが、プラス志向の道徳教育であり道徳科です。

先日、「正直であることはどうして大切なのか」を考え合う道徳科の授業がありました。最初、子どもたちは「叱られるから。」「バレるから。」と話していました。ところが、ある子どもが「今謝らないと、いつまでも正直になれない。」と言いました。先生は、この発言を見逃しませんでした。「どういうことかな？」と全体に問いかけたことで、「自分に勝たないといけない。」「正直だと自信がもてる。」などと、授業はどんどん深まっていきました。

一人では気づけない、心の中にあった見方、感じ方、考え方、生き方が、授業での考え合いによって、どんどん出てきたのです。共に考え合える仲間がいて、それを引き出す先生がいて、そしてそのきっかけを教科書が作ってくれたのです。

『小学道徳 生きる力』では、自己肯定感に注目し、内容項目「個性の伸長」と「感謝」を重点的に扱っています。「個性の伸長」は、自分には必ずよいところがあること、それは一人ひとり違うこと、そして、もっと伸ばしていくことができることなどを考えてほしいからです。こうして自分を認めることができた子どもたちは、自分を支えてくれている周りの人たちに気づくことができます。家族、先生、友達、地域の人、遠くの人たち、そしてその人たちのつながりが自分を支えてくれていることに気づき、「感謝」することで、さらに自分の尊さやすてきさを自覚し、今日を、明日を、笑顔で生きていくことができると考えたからです。

『小学道徳 生きる力』を使って、子どもたちがわくわくするような、プラス志向の道徳教育と道徳科を展開してください。

特集1
子どもたちの「心はずむ」日々のために

インタビュー

低学年（1･2年）

子どもと一緒に考える道徳科を

桃山学院教育大学准教授　龍神 美和

－道徳教育にハマったきっかけを教えてください。

子どもと一緒に考えるのが楽しくなったことです。自分が予想していた以上の答えが子どもから出てくることが楽しくなってきて。それまでの自分の授業観みたいなものが、道徳の授業をして変わったかもしれないです。ほかの教科であまり手を挙げない子が挙げたりしますしね。普段やんちゃな子が真面目なことを言ったり、一生懸命話してくれたりすると、「ちゃんとこういう思いももっているんだな。」とか思います。そういうのがおもしろくてハマっていきましたね。

－日本の子どもは自己肯定感が低いといわれていますが、実感はありますか。

低学年ではあまり低いとは感じないです。「自分はできる。」と思い込んでいて、できないことにぶつかると、「別にやりたくなかったもん。」とごまかして、できないことに向き合わない子が多いですね。「自分はできる。」と思っている部分では自己肯定感が高いといえるかもしれないけれど、それは本当の自己肯定感ではないですよね。

中学年、高学年でアンケートを実施すると、自己肯定感が高いとか低いとかの結果が出ますが、なかなか正確に測れるものじゃないですね。「今の自分のままでいい。」と思っている子の自己肯定感が高い一方で、「もっとこういう自分でありたい。」と思っている

1年「なかよし」

子の自己肯定感が低くなったりします。そうやって理想や現実がちゃんと見えている子ほど低くなりがちなので、結果に疑問を感じるものも多いです。

－子どもたちの自己肯定感を高めるために、道徳科でできることは何でしょうか。

他教科でも同じですが、子ども同士の話し合いの中で、自分の言ったことが受け入れられたり、「そうじゃない。」と言われてちょっと傷つきながらも考えを改めてみたり、そういうことの繰り返しが大切だと思います。いろいろな角度からの投げかけで子どもたちのものの見方が広がったらいいなと思いますね。

それから、おうちの人に教科書を読んでもらうのもいいですね。それが自分の子どものよさについて考えるきっかけになって、子どもへの声掛けがちょっと変わったりするかもしれません。おうちの人と一緒に読んで気持ちが柔らかくなるお話もたくさんありますからね。

－どの教材で授業をすると自己肯定感が高まると考えられますか。

たくさんありますよ。例えば1年の最初のほうを見ても、「たのしい　がっこう」や「ありがとう」では、自分の周りにたくさんの人がいて、自分を見守ってくれているんだと気づくことが、自己肯定感の高まりにつながっていくし、「あいさつの　ある　いちにち」では、いろいろな人との関わりの中で、「おはよう」って声を掛けてもらえるということは、自分は大事にされているんだと思える。挙げていくとキリがないです（笑）。

「そろって　いるけど」（1年）だと、自分ができたことと重なって「自分も意外とできてるぞ。」「結構いいことできてるな。」と思える瞬間がたくさんありそうですよね。自分のいいところを知ることで自己肯定感が高まります。できていないことを反省するだけじゃなくて、「自分も捨てたもんじゃないな。」と思えるといいですね。そういうことも自分を認めていくことになるんじゃないかな。

－授業をしてみたい教材はありますか。

「なかよし」（1年）ですね。最後の「ともだちっていいな。」という部分では、自分も誰かにとって友達なんだっていうことも考えたいですね。それも自己肯定感につながると思います。「友情、信頼」の授業をしていると、「友達にこうしてほしい。」とか「こんな友達がいい。」とか人に求める意見がたくさん出てきます。だけど、「自分も誰かにとって友達なんだ。」っていうことを考えてほしいですね。この「なかよし」では、友達のよさがたくさん出てくるので、「自分も友達に同じことができるんだ。」「自分も誰かにとって大事な存在なんだ。」と思える授業にしたいですね。

「ハッピー・バースデー」（2年）は、いろいろな場面が挿絵に描かれています。さまざまな事情、状況の子どもがいるので、この中のどれかに少しでも引っ掛かって、自分の成長が身近にいる人に支えられてきたことに気づき、さらに「ほかにももっとたくさんあるよ。」と広げて考えられたらいいですね。次の1枚を道徳ノートのフリースペースに描くのもいいかもしれません。これも自己肯定感につながりますね。

気をつけたいのは、挨拶を扱った教材です。元気に「おはよう。」と言う場面が描かれていますが、クラスの中にはいろいろな子どもがいるので、クラスの状況に応じた配慮が必要になります。声に出せなくても一生懸命に挨拶をしようとする子もいるので、声に出せない挨拶もあるし、声に出したからといって挨拶にならないものもある。気持ちが大切だということを考えさせたいですね。

2年「ハッピー・バースデー」

－今後の道徳教育に求められるのは、どのようなことでしょうか。

価値観がどんどん変わっていく時代になりそうなので、「考えられる子ども」の育成ですね。与えられて「これがいいことだ。」「これはこうすべきだ。」というのではなくて、「本当にそれでいいのか。」と自分で考えることが大事です。でも一人で考えるのではなく、ほかの人と話して、意見を交換して、なんとか自分なりの答えを見いだしていこうとする力が必要になってくると思います。子どもに「伝える」のではなく、子どもと「一緒に考える」「一緒に悩む」時代になってきているのかなと思います。「何を子どもと考えるといいのか」を教師自身が自分に問わないといけないですね。

「道徳に答えはない。」という人もいますが、そうではなくて、「答えはたくさんある」んだと思います。たくさんある中で子どもと一緒によりよい答えを探し出していければいいなと思います。道徳が、いろいろな人と話をして、違う意見も聞き入れられる場になればいいですね。自分が認められているという思いがあると、人の意見も認められるので、自己肯定感を高め合えるいい循環になります。

－道徳に取り組む先生方に一言お願いします。

子どもと一緒に考えることを楽しんでほしいです。短絡的な方法論で授業をしないで、目の前の子どもの姿から授業を考えてください。子どもから教わることもたくさんありますよ。

特集1
子どもたちの「心はずむ」日々のために

インタビュー

中学年（3･4年）

子どもがたくさん話せる時間に

神奈川県横浜市立榎が丘小学校校長　仲川 美世子

－道徳教育に関わることになったきっかけを教えてください。

勤務して１年目に、学校の意向で区の道徳の研究会に入れられたのがきっかけです。全然主体的ではなかったですね（笑）。

研究会で教えていただいたり、ほかの先生の授業を知ったりするまでは、道徳のことを何もわかっていなかったですね。極端な話、それまではテレビを見せて、その感想を話し合って……というのが道徳の授業だと思っていました。「道徳の時間」じゃなくても、日頃やっている道徳教育で事足りていると思っていましたから。でも、「道徳教育」と「道徳の時間」とは別なんだということがわかりました。

－日本の子どもは自己肯定感が低いといわれていますが、実感はありますか。

個人差が出てきているように感じます。うそのように自己肯定感が高すぎる子と、「どうしてそんなに低いの？」という子が極端になっています。

全般的に、高学年になっていくほど自己肯定感は下がり気味ですね。いろいろなことがわかってきてしまったために、自分のできなさ加減に気づいてしまうというか。低学年ではそんなことを考える子はあまりいなくて、できなくてもできると思っている、無邪気な子が多いですね。

地域性なんかもありそうです。裕福な家庭が多い地域では、小さいときから習い事をたくさんしていて、親の期待も大きい子が多く、いつも親（大人）の顔色をうかがって、期待に応えられない自分は駄目だと思ってしまう子がいます。「あなたはあなたのままでいいんだよ。」という自信をつけてあげたいですね。親が我が子に期待するのは仕方ないんですけれど、まずは目の前の子どもをそのまま受け止めて、安心させてあげてほしいですね。そうやって土台をちゃんと作っておかないと、外に出たときにほかの子を許せなかったり、手を出してしまったりというところにつながっていくように思います。

－道徳科の時間はどのようにあるべきでしょうか。

１時間、もしくは１年間道徳の授業をやったからといって、子どもの何かが変わるかもと期待はしても、求めてはいけないと思います。だから毎年繰り返し同じ内容項目をやるわけですから。今、子どもたちの中に芽吹いた小さな小さな芽が、大人になったときの「あのときのことって、こういうことかな。」という気づきにつながるかもしれないと思ってやればいいのかなと思います。

道徳科は結論を出さないといけない学習ではないので、先生ばかりが話すのではなく、子どもが自分の思いや考えを話して、それが受け止められて、反応があって……という時間をできるだけたくさん取るようにしたいですね。そういうことができるのが道徳科の時間ですし、そこで認め合うとか受容するとかいうことが、ほかの教科にも生きてきます。

３年「これ、全部東京産」

そのためには、学級経営がきちんとできている必要があります。「友達が話しているときは、話している人の方を向きましょう。」というところからできていないと難しいですね。ただ、以前は道徳の時間にはコの字型に机を配置していたのに、コロナのせいでそれもできなくなって、隣との距離を１m以上とって、全員前を向いて授業をするようになりました。それはかなり厳しいですね。マスクのせいで表情も読めなくなっていましたしね。でも、表情はどうあれ、自分の思いを話すことができない場合でも友達の話を聞いて相づちを打ったり、首をかしげたりという反応を示すということが大事なんだと子どもたちに指導しています。４年生以上には、「そうやって人の話をちゃんと聞くことで、自分の人生に人の考えを付け加えられるかもしれないよ。」と話しています。

－印象に残る授業などありますか。

「子どもがたくさんしゃべったな。」と思える授業は、「いい授業だったな。よかったな。」と感じることが多いですね。先生が二言三言発しただけで、子どもたちが自然発生的に次から次へと発言をつなげていく授業を見たときは「すごいな。」と思いましたね。普段ほかの教科であまり発言しない子が、道徳の時間に自分の考えを話してくれたときは、「よし！」ってなります（笑）。

－気になる教材はありますか。

「これ、全部東京産」（３年）ですね。これを、本校がある横浜のブランド梨「浜なし」と絡めてもいいかと思っています。うちの学校ではちょうど３年生の社会科で、浜なしの農家に行ってお話を聞くという学習があるので、ブランドを守り続けていこうとする人たちの思いをリアルに受け止められると思います。

４年「ブルラッシュ」

「ブルラッシュ」（４年）もいいですね。横浜では年がわりでいろいろな国の方が来て、国際理解教室というのをやっていて、外国と日本の学校生活の違いや遊びの違いなどを教えてくれるんです。そういうところからも共感をもって学べそうです。

そうやって、教科書を配列順に学習するのではなく、学校の実態やカリキュラムに合わせると効果的ですね。

それから、「水族館ではたらく」（３年）。横浜のお話なので、横浜でやりたいです（笑）。キャリア教育にもつながって、働いている人の思いを知るというのは、道徳だけに収まらない教材ですね。

－学校で道徳科に取り組むにあたって、どういうことに気をつけたいですか。

振り返りでは、できたことをしっかり振り返りたいですね。もし、できなかったことばかりになったとしても、たくさん振り返れたことを褒めてあげたいです。そうすることも自己肯定感につながりますから。クラスの実態によっては、「できなかったこと」「できたこと」を分けて聞いてあげてもいいかもしれないですね。

それから、子どもたちが自分に必要な考えをできるだけ自分で見つけられるような授業をしたいです。時間内に答えが出なくても、無理に答えを出させようとして子どもたちを追い込まないように気をつけたいですね。

－道徳に取り組む先生方に一言お願いします。

子どもが自分の思ったこと、考えたこと、経験したことを一生懸命話してくれる時間を楽しんでください。

特集1
子どもたちの「心はずむ」日々のために

インタビュー

高学年（5･6年）

考え、行動する力を役割演技で育てる

日本大学教授　渡邉 真魚

－道徳教育に関わることになったきっかけを教えてください。

初任校が研究指定校で、道徳の授業を公開する担当になったのがきっかけです。取り組みを進めていく中で、学級がどんどん変わる手応えを感じました。その後、自作の資料が教育委員会の指導資料に掲載されたことも大きなきっかけとなりました。

－日本の子どもは自己肯定感が低いといわれていますが、何が原因でしょうか。

成功体験が少ないことも要因として考えられると思います。子どもの数が減ってきて、子どもに手をかける大人が増えてくると、子どもが自分で考えて、判断して、行動する機会が少なくなり、自己決定する場が減ってしまいます。そのため、物事を成し遂げたときに得られる満足感、高揚感、達成感、成就感などが得られにくくなっています。その結果、困難を乗り越える力をもたず、すぐに諦めたり、目標を変えてしまったりする子が多くなっているように思います。

－子どもたちの自己肯定感を高めるために、道徳科でできることは何でしょうか。

「道徳的行為に関する体験的な学習」は自己肯定感を育むことにつながると思います。失敗することもあるだろうけれど、自分で考えて、判断して、行動することが大事です。失敗を失敗として認めることも必

5年　ぐっと深める「折れたタワー」

6年「ゴゴ　九十四歳の小学生」

要だし、それを温かい目で支えてくれる集団も必要です。

日文の教科書でいうと、「ぐっと深める」がこの体験的な学習になっているものがあります。

「折れたタワー」（5年）は、主人公が最後に「許す」ところがポイントです。これができるということは、この子は許されたことがあるんだと思います。ですから、ここで役割演技をして、なおかつ役割を入れ替えるというのがとてもいい。相手の立場で考えられるからです。

それより後に配列されている「うばわれた自由」（5年）のほうは、国のきまりを破ったことは「許せない」というお話です。ペアで話し合ってから、役割演技をして、さらに役割を交代してやってみるという流れが、ウォーミングアップから始まって自由度を上げていくという展開になっていてとてもいい。

この2つの「ぐっと深める」は、「許す」「許さない」「許される」の関係が絶妙に配列されていて、おもしろいと思います。「許す」という内容項目はありませんが、どの価値を実現しようと思っても、人間と人間が向き合うことなので、「許す」「許されない」という行為は出てくることと思います。そのあたりのことが含まれていることも、これらの教材の魅力の一つだと思います。

6年の「ぐっと深める」には、「心づかいと思いやり」と「手品師」がありますが、この対比もおもしろいと思います。「心づかいと思いやり」では3つの場面が出てきて、それぞれに対する思いを考えさせています。一方で「手品師」は、一人に2つの思いを考えさせています。こういうことは、実際の生活によくあることで、「このような場面に出会ったとき、あなたはどんな気持ちになるでしょう。」という問いが、自分の心の中で一度リハーサルをして演じてみるという流れをもたせることにつながっていくのだと思います。

－おすすめの教材はありますか。

なんといっても、「ゴゴ　九十四歳の小学生」（6年）ですね。子どもの頃に労働を強いられて学ぶ機会を得られなかった女性が主人公で、ドキュメンタリー映画を教材化したものです。ぜひ、小・中学校の接続の教材として活用してほしいです。

いよいよ中学生になるというこの時期の子どもたちなら、自分との関わりで考えさせることができる圧倒的な力をもったこの教材で、ゴゴが学ぶのは「生きる喜び」を見いだしていくためだということを、共感的に受け止めてくれるのではないかと思います。中学生になるこの時期だからこそ、「生きること」と「学ぶこと」を同時に考えさせたい。見開きの大きな写真からも、力強い「生きる力」が伝わってきます。

また、世界を見つめていくというメッセージも込めて、あえて遠い国の、歳もはるかに離れ、言葉も文化も違う人の生き方を考えることは意義あることだと思います。そういう人の気持ちを想像できる子どもは、ちゃんと隣の子の気持ちも考えられる子になっていると思います。

教科書には載っていないエピソードですが、ゴゴは99歳で亡くなるまで小学校で学び続けたけれど、結局、卒業はできなかったと聞いています。でも、だからといって、がっかりすることではありません。最後まで学び続けたその姿が大事で、彼女は生きている間、学び続けることを望んでいて、それをかなえられたのだから、そこに人間としての生きる気高さがあると思っています。

そして、高学年が「よりよく生きる喜び」で始まって、「よりよく生きる喜び」で終わるのはとても

5年「ひとふみ十年」

粋な構成ですよね。5年最初の教材「のび太に学ぼう」で等身大の小学生を扱い、6年最後の教材「ゴゴ　九十四歳の小学生」では遠く離れた国の人のことも慮（おもんぱか）れるような子どもたちをめざすというのは、練られた配列になっていると思います。

－今後の道徳科に求められているのは、どのようなことでしょうか。

子どもたちが抱える困難な問題に、主体的に対処する力が身につく、実効性のある道徳にしていくべきだと思います。そのためには「教科書を学ぶ」だけではなく、「教科書で学ぶ」という視点で教材研究をしていくべきで、教室と社会がつながる仕掛け、発達段階を考えてリアリティをもたせることが必要になってくるのではないかと考えています。

例えば、子どもの日常の写真も効果的だと思います。「ひとふみ十年」（5年）を学んだ後に、自分が美しいと感じるものをタブレットで撮影してみるなどすると、一枚の写真が教室と社会をつないでくれます。

日文の教科書の表紙もいいですね。この子たちの表情と自分を重ね合わせてみることで生まれるリアリティもあります。子どもが感動している姿は、教師も感動します。これを見ているだけで楽しくなります。一人ひとりの物語が見えてきますから。

－道徳に取り組む先生方に一言お願いします。

いつも思うことですが、子どもたちの道徳性の発達のためには、私たち大人が輝く必要があると思います。子どもたちの憧れの存在になることが、子どもの成長にはいちばんだと考えています。日文の教科書を手に取られるすべての先生方と、その子どもたちの待つ教室が、ますます輝きますようにと願っています。

特集 2

令和６年度版

『小学道徳 生きる力』ここに注目！！

自己肯定感アップで「心はずむ」日々を――

新しい『生きる力』は、子どもたちが自己肯定感を育みながら、「心はずむ」日々を送ってほしいという願いを込めて、３つの基本方針をもとに編集されました。

こちらもチェック！　日文Webサイト　内容解説資料

基本方針 1　「自分を、まわりの人を大切にする力」を育む

魅力あふれる多彩な教材

たくさんの先生方の意見をもとに、子どもたちと先生が「考えたくなる」「話し合いたくなる」教材の充実に努めました。

個性の伸長

６年「貝塚博士」
貝塚に夢中になっていった主人公が、ボランティアのおじさんとの出会いをきっかけに「自分が夢中になれるものが見つかったということは素晴らしいことなのだ。」と気づきます。

感 謝

２年「ハッピー・バースデー」
誕生日前日にお父さんと一緒にタブレットで写真を見ていた主人公。これまでいろいろな人に支えられて成長してきたことに気づきます。

「個性の伸長」と「感謝」の教材で　自己肯定感 UP

自己肯定感の涵養に関わって、「個性の伸長」と「感謝」の教材を増やしました。

「個性の伸長」「感謝」の新教材

個性の伸長　５年「ことばのカタチ」
６年「貝塚博士」

感 謝　２年「ハッピー・バースデー」
３年「王様のサンドイッチ」
５年「『ありがとう』がつながる」
６年「アスリートの言葉」

よりよく生きる喜び

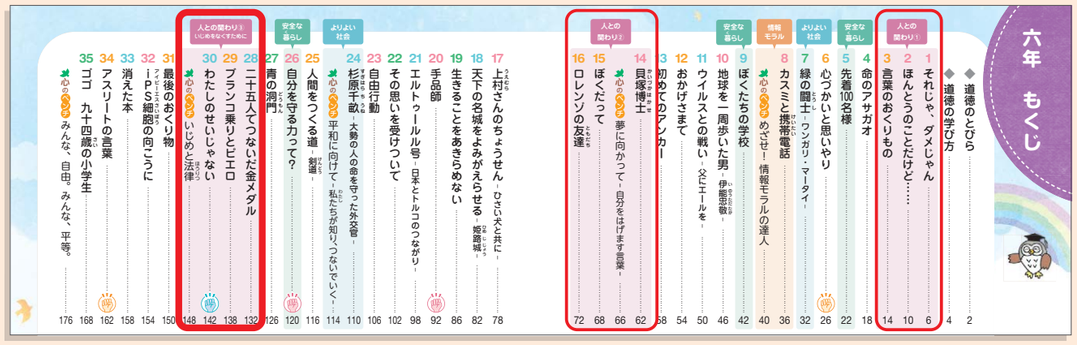
高学年では「よりよく生きる喜び」の内容項目の教材を最終教材として配置しています。
６年では映画「ゴゴ　九十四歳の小学生」を教材化。６年間の学びを総まとめする教材と位置づけ、中学校へと橋渡しします。

６年「ゴゴ　九十四歳の小学生」

いじめ防止ユニット「人との関わり」

誰一人としていじめで傷つくことがないよう、繰り返しいじめについて考えることができるようにしました。

年間3回のいじめ防止ユニット「人との関わり」
いじめを「間接的に扱った教材」、いじめを「直接的に扱った教材」、いじめ防止コラムを組み合わせ、いじめについて集中的に学習します。



いじめを未然に防ぐ　自己肯定感 UP
いじめ防止ユニット「人との関わり」では、子どもたちの人間関係形成への意識づけと、自己肯定感の向上を図ります。

いじめを「直接的に扱った教材」
日常の中で起こりがちな「いじめ」の事例などを取り上げました。

６年「わたしのせいじゃない」

いじめを「間接的に扱った教材」
「いじめ」を許さない心を育てるために考えたいことを取り上げました。

６年「二十五人でつないだ金メダル」

６年「ブランコ乗りとピエロ」

６年　心のベンチ「いじめと法律」

教科書ＱＲコンテンツ
文部科学省の「子供のSOSの相談窓口」にリンクしています。

いじめ防止コラム
いじめを「しない、させない、見過ごさない」ために、大切なことを知ったり、考えたりすることができるコラムです。

基本方針 2

「自ら学びに向かう力」を育む

学びの流れ

３つの発問で「学びの流れ」を作り、子どもたちが学習に取り組みやすくなるように工夫しました。

見つめる・生かす

③ 見つめよう・生かそう

学習を通して気づいたことや考えたことを確かめ、これからに生かしていくための発問例です。

考える・深める

② 考えてみよう（中心発問）

教材のねらいに迫るための手がかりとなる発問例です。

気づく

① 導入

教材に入り込むために役立つ発問例です。

3年「やさしさのバトン」

豊かな学び合いのある授業で

学び方をわかりやすく示すことで、誰一人取り残さない授業に。みんながすでにもっているよさが引き出される、豊かな学び合いを実現します。

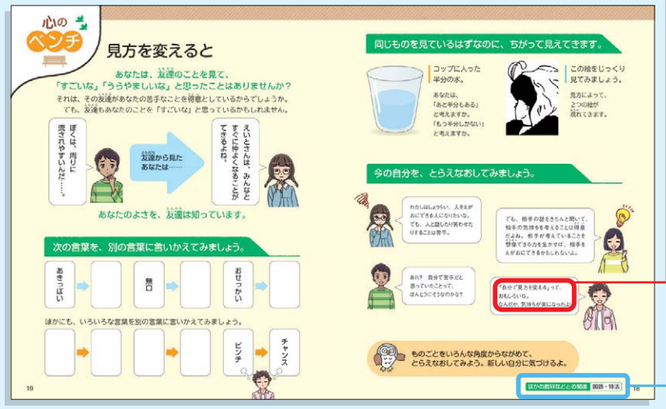
自己肯定感 UP

リード文とおもな登場人物

児童の教材内容の理解を助け、考えたり、話し合ったりする時間をしっかりと確保します。

「心のベンチ」

道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えることができるよう、さまざまな知識や活動などを取り上げました。



5年　心のベンチ「見方を変えると」

「自分で見方を変える」って、
おもしろいね。
なんだか、気持ちが楽になったよ!

リフレーミングで視野を広げて

ありのままの自分を見つめ、捉え直してみると、今まで気がつかなかった自分のよい面を知ることができます。

自己肯定感 UP

カリキュラム・マネジメント

ページ右下にほかの教科などとの関連を表記しています。

新 「ぐっと深める」

子どもたちの思考を深めるための手立てを、参考例として具体的に示しました。

他者との学びで

自分とは異なる新たな考えや価値に触れながら、さらに自分を見つめていく、本質的でより深い学びへと誘います。

自己肯定感 UP

各学年５教材に設定（1年のみ６教材）

ねらいにぐっと近づいた深い学びを実現するために、読み物教材による学習に加え、**問題解決的な学習**や**体験的な学習**の手法、**多様な実践活動を生かした学習**の要素を取り入れた、多様な参考例を具体的に例示しました。

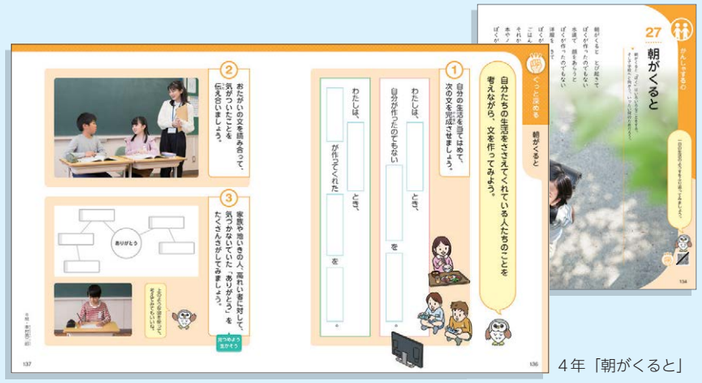
書いてみて

言語活動でぐっと深めて

見つめよう 生かそう につなげる！

例えば……

書くことで、自分の生活が多くの人に支えられていることに気づき、それを交流することで、さらに新しい「感謝」に気づくことができます。



4年「朝がくると」

動いてみて

役割演技を通してぐっと深めて

見つめよう 生かそう につなげる！

例えば……

役割演技を取り入れることで、登場人物を通して、安全に過ごすための考えを深めることができます。

2年「あぶないよ」

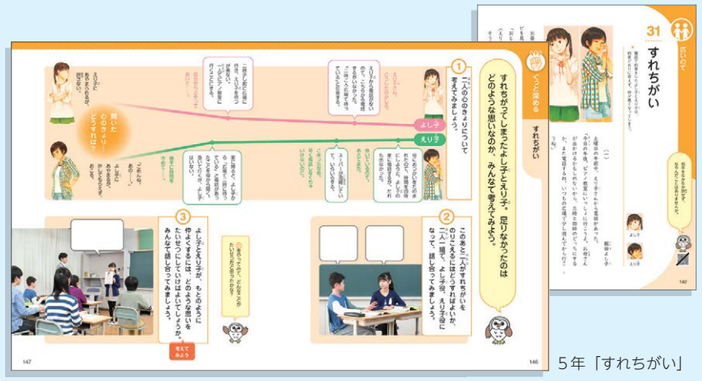
整理して

図式化してぐっと深めて

考えてみよう につなげる！

例えば……

図式化することで、それぞれの事情が重なり、すれちがっていく状況や心情を捉えやすくなります。



5年「すれちがい」

基本方針 3 「みんなと生きていく力」を育む

新 「見つけた！ ここにも道徳」／「SDGsで考えよう」（３～６年）

道徳科の授業で学習したことと、日常の生活や SDGs の 17 の目標とつなげることで、現代的・社会的な課題を「自分ごと」として捉え、考えを深めていくことができます。

いまの自分の生活とつなげて

普段の生活の中で、よいなと思う物事に気づき、考え続けようとすることが自己肯定感を育みます。

自己肯定感 UP

4年「見つけた！ ここにも道徳」／「SDGsで考えよう」

もっと詳しく

内容解説資料別冊②
道徳から広がる豊かな学び
ー「見つけた！ ここにも道徳」／「SDGsで考えよう」ー

道徳ノート

普段の生活の中でつながりを感じたものを書いたり、貼ったりすれば、自分だけのノートができます。

情報モラルへの対応

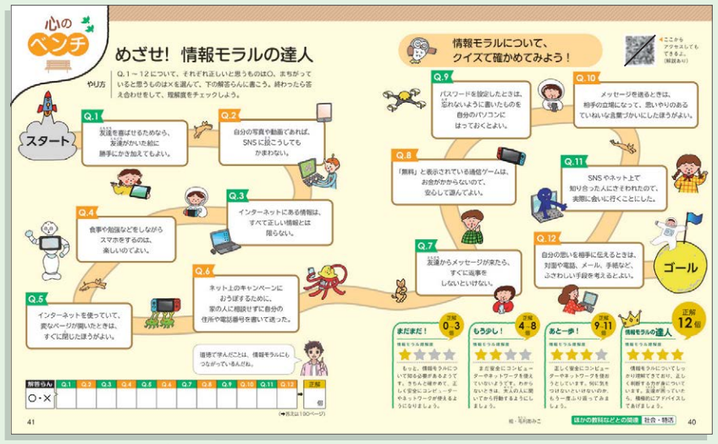
道徳教育を通して、情報活用についての資質・能力の育成を図ります。

携帯電話やメール、コンピューターなどを題材にした情報モラルの教材とコラムを組み合わせて**全学年に掲載**しました。

教 材

６年「カスミと携帯電話」

心のベンチ



６年　心のベンチ「めざせ！ 情報モラルの達人」

■情報モラルを扱った教材と「心のベンチ」一覧

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年
教材	13「ひつじかいのこども」	23「おばあちゃんお元気ですか」	9「きまりはだれのため？」	15「交流学習の前に」	31「すれちがい」 32「知らない間のできごと」	8「カスミと携帯電話」
心のベンチ	よい　ことかなどうかな	「ありがとう」をつたえよう	ゲームがやめられない	インターネットの向こう側	親しき中にもマナーあり	めざせ！情報モラルの達人

プラス 1 すべての子どもたちの学びを支えるために

新「道徳ノート」

各学年の教科書には、別冊の「道徳ノート」がついています。二次元コードからアクセスできるデジタルノートと併用することで、より活用の幅が広がります。

道徳ノートを使って

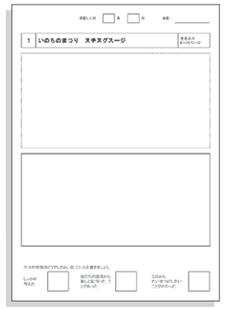
あらためて自分を見つめ、「いまの思いや考え」を整理し、自分の言葉やイメージで表現することが、自己肯定感を高めることにつながります。

自己肯定感 UP

もっと詳しく

内容解説資料別冊③
使ってみよう！ 新「道徳ノート」
ー思考が深まり、学びがより確かなものにー

授業支援システムで使える デジタルノート



[Googleドキュメント]

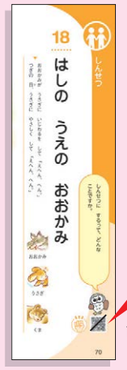
[Wordデータ]

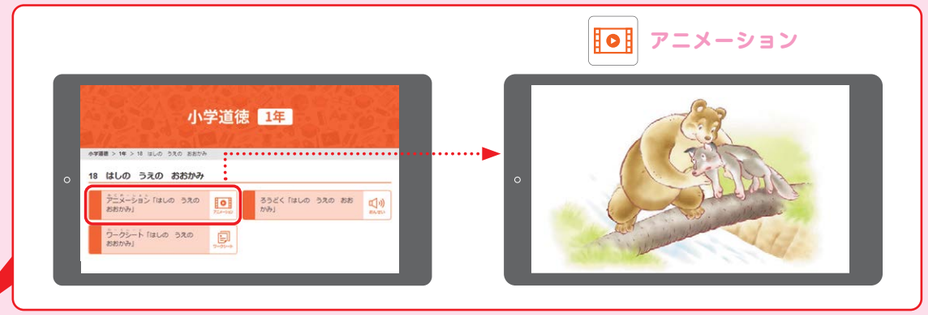
新 教科書ＱＲコンテンツ

授業の導入や展開など、自由に活用できるデジタルコンテンツを豊富にご用意しました。

内容

朗読音声　画像　アニメーション
ワークシート　動画　朗読動画　など





1年「はしの　うえの おおかみ」

教科書ＱＲコンテンツを動画で詳しく解説！

教科書ＱＲコンテンツを体験！

この二次元コードより、2023 年 9 月 16 日まで教科書 QR コンテンツをご覧いただけます。

もっと詳しく

内容解説資料別冊①
手軽にアクセス！ 教科書 QR コンテンツ
ー「個別最適な学び」のためにー

授業づくりの強い味方！ 教師用指導書のご案内

●授業の流れが一目でわかります！
●評価のポイントがわかります！

もっと詳しく

別冊 教師用指導書のご案内

セット内容
・朱書・板書編（各学年1冊）
・研究編（各学年1冊）
・指導者用デジタル教材
・デジタルデータ集

朱書・板書編
教科書の見開きごとに丁寧に解説しています。

研究編
授業研究から評価まで、しっかりサポート。

指導者用デジタル教材
教科書紙面をデジタル化。パソコンや電子黒板で大活躍！
※ビューアには、「みらいスクールステーション」を採用しています。

デジタルデータ集
計画立案に役立つ資料や、授業づくりに便利な「顔絵」「場面絵」などを収録。

第21回 見てわかる！道徳

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。
それらは密接に関わり合い、また競合する場合もあります。
ここでは、内容項目間の関係をわかりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

今回のテーマ

「個性の伸長」
「感謝」

監修：広島大学名誉教授　越智 貢
共著：南山大学教授　奥田 太郎
北海道教育大学准教授　奥田 秀巳

「ありがとう」という言葉の力

最近、感謝の気持ちを言葉にして誰かに伝えたことがありますか？ おそらく、感謝の気持ちを伝えるのが得意な人もいれば苦手な人もいるでしょう。しかし、感謝の気持ちがこもった「ありがとう」という言葉には、その言葉に触れた人たちの世界の見え方を変化させる力があり、言った人も言われた人も、言い知れぬ温かい気持ちになります。この言葉の力はいったいどのような力なのでしょうか。

感謝の連鎖の先にあるもの

感謝の宛先としてまず思い浮かべるのは、自分に何かをしてくれた人、つまり、感謝の言葉を直接伝えられる人でしょう。しかし、感謝の宛先はそれにとどまりません。私たちの食事が、作物を育てる人々や、それを運送する人々によって可能になっているように、自分の目の前にある事物には、必ず見知らぬ誰かが関わっています。そうした目の前にいない人たちに感謝の言葉を直接伝えることはできませんが、感謝の気持ちを抱くことはできます。確かに、感謝される人たちがその感謝の気持ちに気づくことはないかもしれません。しかし、感謝をした人にとっては、自分を取り巻く世界が感謝の宛先として親しみをもって見えてくるでしょう。

そのように感謝の宛先の範囲を、目に見えるところから目に見えないところまで広げていくと、自分がこの世界の中に生かされているのを自覚することができます。そして、この自覚が、自分だけでなく、自分以外の人たちにとっても同じく生じ得ることに気づくことができれば、この世界に住むすべての人々が、互いに生かし生かされている関係にあることに思い至るでしょう。そうなれば、世界は、もはや自分にとってよそよそしいものではなくなり、その世界に存在する自分もまた、自分にとってよそよそしいものではなくなっているはずです。

感謝がもたらす個性の伸長

このことを普段の生活の中で具体的に体験できるのが、個性の伸長に関わる場面です。あなたが普段何気なく教室の床に散らかっていたゴミを拾っていたところ、それについてクラスメイトから感謝されたとしましょう。そのときあなたは、自分に向けられた感謝を通して、自分のしていたことが実は誰かにとって意味のあることであり、自分がそれを成し得る人間だということがわかります。それは、自分が気づいていなかった自分の個性に気づくことだといってよいでしょう。そして、自分もまた同じように、誰かに対して感謝することを通して、感謝の宛先となったその人にその人自身の個性を気づかせることができるのです。

第 17 回（「どうとくのひろば 30 号」に掲載）の「見てわかる！ 道徳」で述べたように、個性の伸長は、「個々人が集団の中で互いの個性に対して真摯に向き合い、互いを認め合いながら集団生活を充実させていく」営みの中で促されます。そして、互いを認め合う最も簡便な方法が、「ありがとう」という感謝の言葉です。

感謝と人間愛の精神

まことに、感謝は不思議な力をもっています。自分に親切にしてくれた人には親切をしたくなる気持ちが芽生えますが、自分が親切にした人から、感謝の気持ちが伝えられると、その人ばかりかそれ以外の人々にも親切をしたくなる気持ちが芽生えます。つまり、感謝の行為も、親切の行為と同じく、親切の応酬をもたらすのです。しかも、感謝は親切の輪を広げます。感謝の広がりは親切の広がりと連動するといっても過言ではありません。

先に触れたように、感謝に支えられた世界は、その世界に住む人々にとって、よそよそしいものではありません。それは、むしろ親しみに満ちた世界であり、私たちがあたかも人間愛によって包まれているかのように感じられる世界です。無論、現実的な助け合いに直結するほどに感謝があふれる世界は、家族や友人、あるいは地域などのような小さな世界に限られるかもしれません。しかし、感謝と親切の輪の広がりが、その小さな世界を少しずつ大きくするのは間違いありません。

中学校学習指導要領が説く「人間愛の精神」とは、感謝を通して、互いを認め合い、互いを助け合う世界を構築する、という指針を表現したものにほかなりません。「ありがとう」という感謝の一言が「人間愛の精神」の入り口ともなっていることを忘れるべきではないのです。

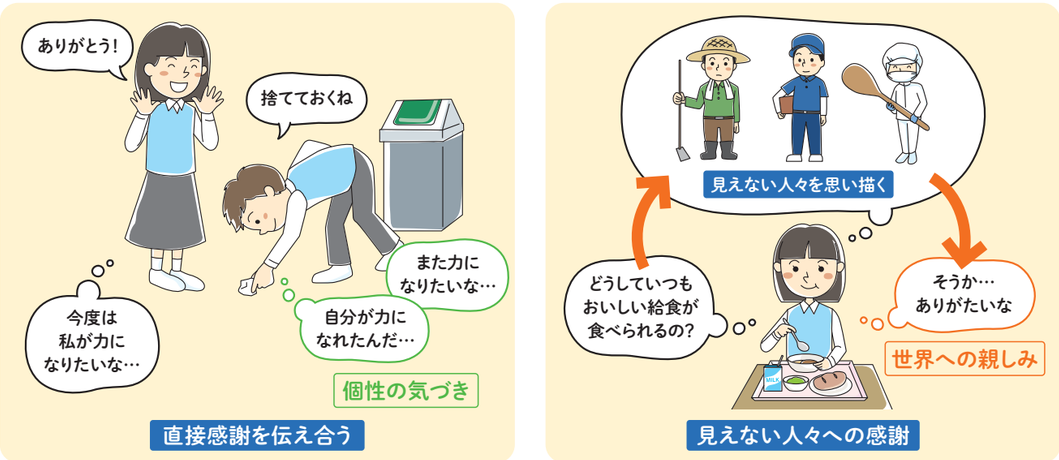


図 1　感謝の言葉を通じた関係

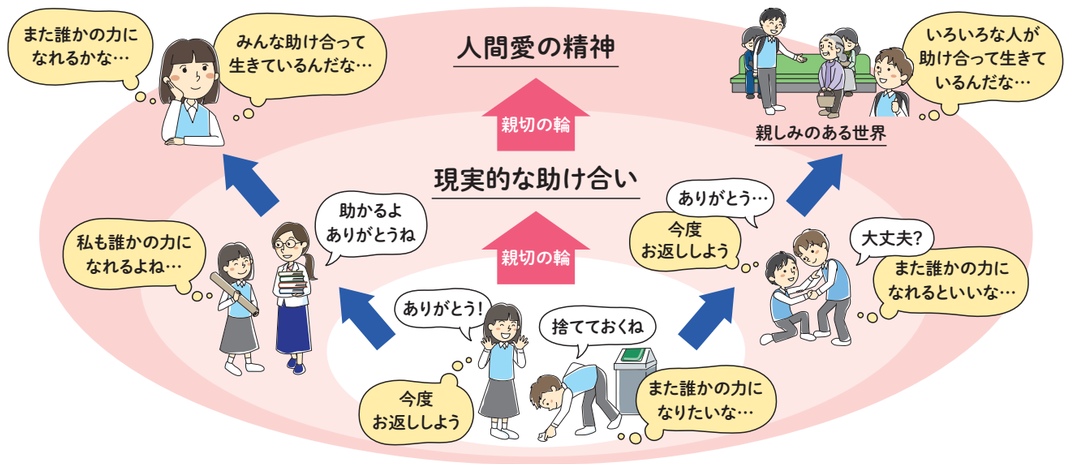


図 2　感謝と親切の輪の広がり

実践事例
中学校

ロールプレイを通して主体的に考える道徳へ

山形県鶴岡市立櫛引中学校教諭　奥山 美幸

教材名	一冊のノート（『中学道徳　あすを生きる　3』日本文教出版）
内容項目	C「家族愛、家庭生活の充実」
主題名	家族の在り方

① はじめに

本校では学校研究として、ねらいが知識・技能的要素中心の授業は「めあて」と「まとめ」、思考力・表現力・判断力中心の授業は「課題」と「振り返り」として毎時間提示するようにし、区別化を図っている。道徳科はそれぞれの思いを自分の言葉で表現することを求めているため、今回のねらいも「課題」として提示した。

また、ここ数年は道徳科において主体的で深い学びをめざすために、登場人物と自分を照らし合わせられる教材に関してはロールプレイを行ってきた。役になりきることで登場人物の思いをより深く感じ取ることができたり、演じていない生徒も客観的にその様子を見ることで考えに深まりが生まれていたりと、効果を実感している。そこで、今回はロールプレイを取り入れた実践を紹介していきたい。

② 教材について

教材「一冊のノート」は、認知症により物忘れが激しくなり年老いてきた祖母と主人公「僕」の物語である。祖母にいら立つ「僕」だったが、ある日祖母の机上に一冊のノートを見つけ、苦悩しながらも家族のことを一心に思う祖母の強い気持ちに触れた。そこから「僕」は、祖母への感謝の思いや、これからは自分が家族を支える側になろうという思いを新たにする。

この教材を通して、ロールプレイを取り入れながら「僕」と祖母の両方の思いを想像させたいと考えた。その後、今までの生活を振り返らせ、家族を受け入れることや、家族の一員として何ができるのかについて、自分ごととして考えさせたいと思った。

③ 授業の工夫

（1）導入

導入では、生徒の興味関心を引き出すこと、本時で考えさせたい「課題」を全員が理解して授業を始めることを意識した。

本校の生徒は２年次の総合的な学習の時間で「認知症講座」を受講している。少子高齢社会を生きてゆく現代の生徒にとって、認知症は切り離して考えることができない問題のひとつだ。

はじめに、昨年度の認知症講座の様子をスライドショーで提示し、その直後に「では、認知症の方へはどう接するのがよかったでしょう。」と尋ねた。当時を思い出せなかった生徒も、スライドショーの内容を手掛かりにして「優しくする。」「ゆっくり話す。」などと記憶を確かめていた。本教材は、認知症についての知識がないまま読むのと知識を得た状態で読むのとでは、話の理解度や考えの深まりが大きく異なる。今回は総合の時間だが、生徒の興味関心を引くために、教材によっては保健体育や家庭科など他教科で学んだことを道徳科の導入に取り入れることも有効だと感じている。

ここで大半の生徒は、今日の課題が認知症や高齢者に関わることだと気づく。思考の方向づけは考えを深める第一歩だ。また、生徒たちに「おじいちゃん、おばあちゃんと同居している人？」と質問をして手を挙げさせた。周りの生徒も同じ環境だということが伝わり、意見を出しやすい雰囲気になった。

次に、「去年、みんなは認知症講座で『おじいちゃんやおばあちゃんに優しく接する。』などの意見を出していたけれど、今それができている？」と尋ねた。すると、大半の生徒が首を横に振った。本校の地域は三世代同居率が高く、高齢者とのつながりは深い。しかし、自分ごととは捉えられない生徒も多くいるため、繰り返し学ぶことは重要であると考える。

導入の最後には、本時の課題「家族を受け入れるためにできることを考えよう。」を提示し、全員で読み上げさせた。毎回声を合わせて読ませることで、課題意識が明確になる。実生活とのつながりをはっきりと理解してから課題を意識づけることは、学習意欲の向上につながると考えている。

（2）展開

工夫１「範読の仕方」

本教材は範読だけで10分以上かかるため、範読を2回に分けて行った。そうすることで、前半の自分本位な気持ちから後半の祖母に寄り添おうとする気持ちへの変化を感じ取りやすくなる。また、発問に対し、生徒が比較的短時間で考えを表現できたとも感じている。

工夫２「ICT を利用した心情メーターの活用」

「家の中」「祖母が買い物から帰ってきたとき」「父からの話を聞いた後」の３場面での「僕」の気持ちについて考えさせた。このとき活用したのが、学習用端末で使用しているシステム「SKYMENU」のポジショニング機能である。祖母に対する「僕」の気持ちとして、「いら立ちや不満」と「受け入れ」を心情メーターの両端に設定した。紙のメーターと比較すると、モニターに全員の意見を並べたり重ねたりして表示できるため、教師のみならず生徒同士が一目で全体の考えを把握することができる。また、意図的な指名もしやすい。そして、自分の考えの変遷を確認できる機能もあるため、振り返りの際に役立てることもできる。

前半の２場面では「いら立ちや不満」にポジショニングする生徒が大半であったが、「僕」の気持ちが揺れる最後の場面では、「受け入れ」へ大きく動かす生徒が多数いた。その中でも中間にポジショニングした生徒を意図的に指名すると、「『だけど……』と書いてあるから、受け入れたいけど受け入れられないのかも。」という意見が出た。そこから、単純に受け入れられないという複雑な「僕」の心情に迫ることができた。

工夫３「ロールプレイの仕方」

本校ではロールプレイを継続して行っているため、抵抗感は少なく、好きな生徒が多い。取り入れ方として、本時の学習では、祖母に対する「僕」の思いに共感させながら祖母の気持ちも考えさせることを大切にした。実際に演じることによって、範読を聞いただけでは気づかなかった「僕」の心の変化や行動を自分ごととして実感できるとともに、祖母側も演じることで他者の気持ちを想像できるようになる。このように、ロールプレイを行うことで多面的・多角的に物事を考えることにつながると考え、実践している。

今回は、１時間の中で２回のロールプレイを取り入れた。考えを深めさせたり、書かせたりする時間をしっかり確保することは重要であるが、今回は「僕」と祖母のやり取りを前半・後半それぞれで体験させることにより、本時の課題により深く迫ることができると考えたからである。

ペアでロールプレイをさせた後に、代表者２名に演技をさせた。かごを持っているのが祖母役。言い合いの様子から 2人の思いに迫る。

森ノ宮医療大学教授
福島 信也 先生から

認知症講座とは、「支え合いの心」を育むことを目的に、鶴岡市社会福祉協議会の櫛引福祉センターが全国キャラバン・メイト連絡協議会と協働で児童生徒に行っている「認知症サポーター養成講座」のことです。この講座は、認知症に対する正しい知識と理解をもち、認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成して、認知症の高齢者などにやさしい地域づくりに取り組んでいくことが目的です。地域住民をはじめ、小・中・高等学校の児童生徒などさまざまな方が全国で受講しています。全国キャラバン・メイト連絡協議会のホームページによると、令和２年度に受講した小学生の数は 121,004 人、中学生の数は 70,542 人、令和３年度では小学生 151,065 人、中学生 99,120 人となっています。

実践事例
中学校

	学習活動（◎課題、〇基本発問、・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点
導入	**1「認知症講座」を振り返る。** **〇昨年度の認知症講座の中で、どんなことを覚えているか。** ・認知症の人の症状や接し方について。 **2 課題の提示をする。** **◎家族を受け入れるためにできることを考えよう。**	◇代表者のロールプレイがよく見えるように、机をコの字形にさせておく。 ◇昨年度の総合的な学習の時間に行った「認知症講座」の様子をスライドショーで見せながら思い出させる。 ◇三世代同居の生徒がほとんどであるため、家族の接し方に密接した課題設定にする。
展開	**3 教材「一冊のノート」の前半を読み、「僕」の心情を捉える。** **〇「僕」は祖母に対してどんな気持ちなのか、心情メーターで表現してみよう。（いら立ちや不満⇔受け入れ）** 心情メーター①「家の中」※ほぼ「いら立ちや不満」 心情メーター②「祖母が買い物から帰ってきたとき」 ※ほぼ「いら立ちや不満」 **〇「祖母が買い物から帰ってきたとき」の場面を演技して、「僕」と祖母の思いを考えてみよう。** 「僕」・しっかりしてほしい。　・迷惑だ。 祖母・道で会っても知らん顔をされて怒っている。 ・自分はきちんとしているつもりなのに孫からきつく言われて悲しい。 **〇父から祖母の症状を聞いた後の「僕」の気持ちを考えて心情メーターで表し、隣の人と意見を交換しよう。** 心情メーター③「父からの話を聞いた後」 ※中間や「受け入れ」が多い いら立ちや不満・病気でも許せない。　・迷惑だ。 ・悪気がなくても我慢できない。 受け入れ・病気だから仕方ない。 ・おばあちゃんを見守らなくては。 中間・頭で理解していても気持ちが追いつかない。 **4 教材の後半を読み、「僕」の心情を捉える。** **〇ノートの最後の空白のページにぽつんとにじんだインクの跡を見て、「僕」はどんなことを感じたのだろう。** ・本当はこんな不安や悩みを抱えていたんだ。今まで気持ちをわかってあげられなくてごめんね。 ・僕たちのことをずっと考えていてくれたんだね。もうあんなひどいことは言わないよ。 **5 草取りの場面を演技して、２人の思いを考える。** **〇グループごとに「僕」役、祖母役を設定し、実際に草取りの場面を演技して、2人の思いを考えてみよう。** 「僕」・声が出せなかった（怖がらせたくなかった）。 ・長生きしてほしいから僕が手伝うよ。 ・祖母の心に寄り添いたくて優しく声をかけた。 祖母・手伝ってくれてうれしい。 ・優しく寄り添ってくれたので安心した。 ・並んでそっと隣にいてくれてうれしい。	◇前半（「僕」が一冊のノートを見つける前まで）を読む。 ◇心情メーターは「SKYMENU」のポジショニング機能を使う。 ◇物忘れがひどくなる祖母への「僕」のいら立ちや不満を捉えさせる。 ◇メーターの度合いを見て意図的に指名し、意見を発表させる。 ◇隣の人と２人組でロールプレイをさせる。 ◇全体の前で代表者に演技させ、見ていた生徒に考えを聞く。 ◇「僕」と祖母がどのような気持ちか、両者の気持ちを多面的に捉えさせる。 ◇補助発問「『僕』が父の話を聞いて、『だけど……』の後に何も言えなかったのはなぜか。」 ◇祖母の症状を理解しながらも、自分本位な考えが残っていることに気づかせる。 ◇「僕」と自分を重ね合わせて自己内対話をさせ、道徳ノートに記述させて、考えを深めているかを見取る。 ◇４人組のグループでお互いのロールプレイを見合わせる。 ◇グループ活動の様子を見ながら発表者を決める。 ◇考えを道徳ノートに記述させ、「僕」になりきって気持ちを書こうとしているかを見取る。
終末	**6 振り返り** **◎家族を受け入れるためにできることを考えよう。** ・家族を理解しようとすること。 ・感謝の気持ちを忘れないこと。 ・自分ができることをして家族を支えていくこと。	◇自分が家族の中でどんな役割なのかをあらためて考えようとしているか、家族の一員として今までできていたことやこれからどうしていきたいかを考えようとしているかを見取る。 ◇教科書に掲載されている詩「手紙―親愛なる子供たちへ―」の音楽動画を動画サイトで視聴する。

前半は、「祖母が買い物から帰ってきたとき」のやり取りをペアでロールプレイさせた。このねらいは、「僕」の思いを実感するとともに、祖母がどんな思いでいるかを感じ取ることである。本時の課題「家族を受け入れるためにできること」に向き合うためには、家族の思いを感じ取り、理解することが大切であると考えたからだ。この場面で、「僕」と祖母は対峙し、語気を強めて言い合っている。演じることで、２人の思いを想像するだけでなく、態度に関しても気づきが生まれた。

後半にロールプレイを行ったのは、一冊のノートから祖母の思いを感じ取った「僕」が「草取りをする祖母を手伝う場面」である。祖母を受け入れたくても受け入れられなかった「僕」が、家族を思う祖母の深い愛情を受け止めたとき、どのような関わり方をするのかを体験させることで、生徒自身が相手を受け入れるためにできることを感じ取れると考えた。

実際にロールプレイの様子を見ると、口調が前半のときとは大きく違い、優しい話し方をしている生徒が多くいた。祖母役はせりふがないものの、ほほえむことで安心感を伝えたり、うれしさを伝えたりしていた。前半のロールプレイと比較することで、祖母の隣に寄り添うことや、話し方を考えることが大切だと主体的に考えられた生徒が多くいた。

振り返りにつながる後半は、演じるペア、見るペアの４人組でロールプレイをさせた後に、代表者２名に演技をさせた。左側の生徒が「僕」役。右側の生徒が祖母役。

工夫４「板書の工夫」

祖母と「僕」を対比させ、気持ちの変遷をわかりやすく表現した。顔絵と場面絵は事前に作成した。

（３）終末

振り返りはノートに記述させ、評価の参考にした。

【生徒の振り返り】
- 日頃からたくさん会話をするようにして感謝を忘れないようにする。
- 強い口調や態度は相手を傷つけるから気をつけたい。
- 私も家族に強く当たってしまうことがあるので、相手が言われてどう思うのかを考えて言葉を発したい。
- 家族が支えてくれたり自分のために頑張ってくれたりしていることをいつも思い出すようにしたい。
- もし、すぐに忘れそうだったら紙に書いて渡すなど工夫をする。
- 今まで家族に対して態度が悪かったから、今日から優しく話せるように態度を変えたい。

数名に発表させた後、教科書に掲載されている詩「手紙―親愛なる子供たちへ―」の音楽動画を視聴した。詩をそのまま読むよりも、アニメーションと音楽に乗せた動画は伝える力が大きく、中には涙ぐんでいる生徒も見られた。時間の都合で最後までは見られなかったが、十分に伝わるものがあったと感じた。

④ おわりに

ロールプレイを何度も行うことで、その内容を自分ごととして深く考えることができるようになるため、道徳的価値が深まったり実践力が高まったりすると実感している。これからも継続して取り入れていきたい。

森ノ宮医療大学教授 福島 信也 先生から

今回行ったようなロールプレイは、深い気づきや学びにつなげられるという点で大きな魅力があります。ただ、思春期特有の「照れ」や「恥ずかしさ」から、やりたがらないし、乗ってこない。生徒に演じさせると、教材の設定から逸脱したり、本来の意図に反したりしてしまうという心配があるなど、中学生には難しいという声もよく聞きます。しかし、ポイントを押さえて実施すれば手応えを感じられる手法で、臨機応変な対応やよりよい生き方を模索するような場面では、深まりのある話し合いが期待できます。

奥山先生は、授業の中で２回のロールプレイを取り入れ、自己の生き方についての考えを深める実践をされました。この実践ができたのは、櫛引中学校における学校研究の継続した取り組みとともに、奥山先生と生徒との関係性や学級の雰囲気、生徒同士の関係性なども要因であると考えます。「考え、議論する道徳」を進めるうえで、大切なポイントです。

こんなコト、聞いてみました！

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり、励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

道徳教育について校内での温度差をなくすための工夫は?

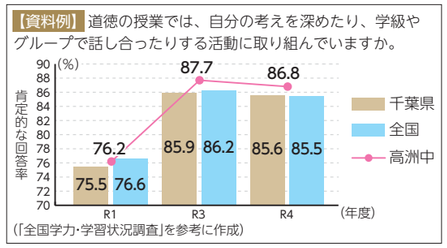
生徒や教職員の実態を把握し、共通理解を図っていきましょう

千葉県浦安市立高洲中学校教諭　田中 大輔

1．さまざまな調査結果から比較してみる

① 文部科学省「道徳教育推進調査」
② 国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」[i]
③ 武庫川女子大学　押谷由夫研究室「全国道徳教育調査」
④ その他教育委員会による調査（各自治体で実施しているものがあれば）

などが、比較的簡単に調べて結果を得ることができるものだと思います。特に「全国学力・学習状況調査」については、各校ごとに調査結果が通知されていて、学校内で整理できていれば「経年変化」を簡単に知ることができます。こうした全国的な調査に基づく「結果」や「経年変化」を知ることは、道徳教育に関わらずとても重要なことなのではないかと考えています。また、経験年数が浅い道徳推進教師でも**データに語らせる**ことで説得力のある方向性を示すことができるのではないでしょうか。



2．校内アンケートをしてみる

一般的な調査と比較していくと、「生徒のここをもっと知ることができれば……。」と感じてきます。そうなると、追調査を実施してより明らかにしていくことが望ましいと思います。今は GIGA スクール構想により整備された端末で、簡単にアンケート調査を行うことができます。学校全体で「よりよい道徳教育（道徳科の授業）の在り方」を追究することが調査の目的なので、学級ごとで結果を公表せず、全学年ベースで行い、発達の段階や実態などの関係性を見いだしたいときに、学年ごとに整理して比較しています。

3．道徳通信（推進だより）を発行する

私は、職員会議にて、毎月「道徳推進だより」と名付けた資料を配布しています。ねらいは、3つあります。1つ目は、頑張っている先生方の努力を知らせること。2つ目は、共通理解・認識を図ること。3つ目は、参考資料となること。特に、努力されている先生方の授業を紹介するために、全先生方の授業を参観するように毎年心がけています。また、こうした記録の過程そのものが次の道徳推進教師への引き継ぎ資料になり得ると考えています。

4．道徳部会の設置、研究・研修部、教務部との連携

これまでの取り組みの前提となりますが、道徳教育の充実を通して、**校長先生がめざす学校教育目標へ近づけていくことが大切です。**そのために、各学年道徳担当の配置を管理職の先生と相談し、道徳部会といった複数人の組織編成に調整していただきました。この部会員を通して、各学年の授業の実態把握や、評価・研修・授業の準備などを円滑に進めることができました。また、教務主任の先生とは、道徳科の授業の量的確保に向けて、学期ごとに各学年の授業実施数の詳細を報告し、次年度のよりよい教育課程へと生かせるように連携しています。研究・研修部とも、連携し合って年に2度以上の研究授業の計画を実施しています。

最後になりますが、私が勤務している学校は決して道徳教育の研究指定校であったり、研究主題を道徳教育に設定したりしている学校ではありません。道徳推進教師として活動するのは3年目ですが、少しずつ先生方の努力が実を結んできていることが調査結果から表れてきていることに、うれしい気持ちと「感謝」の気持ちをもっているところです。「水が自然に染み込むように、少しずつ養い育てる」意味をもつ「涵養」という言葉の通り、長期的な目線で焦らずじっくり取り組むことが大切だと思います。

i 国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」HP https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

地球の仲間からのメッセージ

獣医師、元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎

日光浴をするアオハシコウ

羽

鳥にとって羽は生命線です。なぜなら羽は空を飛ぶためになくてはならないものであることはもちろん、体温を維持するうえでも欠かせないものだからです。ですから、鳥は暇さえあれば体中の羽毛を、くちばしを用いてくしけずって、乱れを整えたり汚れを取ったりしていますし、安全な水場を見つけると必ずといってもよいほど水浴びをします。水を浴びることで汚れが取れ、その後に脂を羽毛に塗るとき、脂がより伸びやすくなるのです。

その脂は、尾脂腺（びしせん）と呼ばれる尾羽の根元の少し頭側にある腺から分泌されます。尾脂腺にくちばしを押し付けることによって脂を絞り出してくちばしにつけ、そのくちばしで全身の羽をくしけずることによって羽毛に脂を塗り込むのです。こうすれば雨に濡れても、水上に浮かんでも脂が水をはじいてくれて、皮膚に直接水が触れることはありません。もし体調を崩して水浴びができず、整羽もできないでいると、かかった雨が体の中に浸入し体温を奪われ、死に至ることもあり得ます。水浴びと整羽の重要性がここにあります。

水浴びをするシロガオリュウキュウガモ

また、この脂の中にはビタミンDの前駆物質があり、太陽光にさらされるとビタミンDに変化します。それがくちばしで羽を整えるときに口に入って吸収され、骨へのカルシウム沈着を進めるのです。同時に、この脂は抗菌性も併せもっています。これが鳥たちが水浴びを好む理由です。

ですから小鳥を飼育するとき、その鳥が入るくらいの、ヒトに例えるとバスタブくらいの大きさの容器が必要になります。これを準備していないと飲み水用の容器で無理やり水浴びをしようとしますし、また、水浴び用の容器しかないと水浴びを終えた後の水を飲もうとします。これは避けなくてはなりません。

日光浴も大事です。殺菌効果が期待できますし、温かくなるので羽毛に潜んでいた外部寄生虫が動き出し、見つけやすくなるという効果もあります。

砂浴びをする鳥もいます。キジなどの地上性の鳥や砂漠にすむ鳥でよく見られ、小さな砂粒で汚れを落としたり寄生虫を弾き飛ばしたりするのです。

珍しいところでは、アリ浴びをする鳥もいます。アリの列の中に飛び込み、怒ったアリを浴びることで、アリの分泌する蟻酸（ぎさん）によって寄生虫を殺すのです。約1万種いるとされる鳥の中で、約250種の鳥がこれをすることが知られています。

このように鳥たちはさまざまな方法で羽を維持し、そして自分たちの健康を守っているのです。

文部科学省検定済教科書　**令和６年度版**
小学校道徳科用

小学道徳　生きる力　1〜6年

- 思考が深まり、学びをより確かなものにする**新「道徳ノート」**付き！
- 学びへの意欲が高まり、授業が充実する**教科書 QR コンテンツ**を豊富にご用意！
- 朱書・板書編、研究編、指導者用デジタル教材、デジタルデータ集からなる**教師用指導書**完備！

日文 Web サイトのご案内

小学校道徳新版教科書に関する情報のほか、
日々の指導に役立つ資料を公開しています。

- **内容解説動画**
- **教科書 QRコンテンツ動画**
- 内容解説資料（電子ブック）
- 教科書QRコンテンツ（2023年9月16日までご視聴可能）
- 編修趣意書
- 年間指導計画案
- 各教科等との関連表
- 機関誌「どうとくのひろば」　など随時公開予定

教科書 QR コンテンツ［アニメーション］

１年「はしの　うえの　おおかみ」

どうとくのひろば　**読者アンケートにご協力ください！**

よりよい広報資料をお届けするため、
先生のご感想、ご意見を左の二次元コードから
ぜひお聞かせください！

どうとくのひろば No.34

日文教育資料［道徳］
令和5年（2023年）4月30日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

令和6年（2024年）度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。
編集協力：株式会社ストア
デザイン：モスリングラフィック

CD33659

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690